第4回4大学学生交流会 合同合宿ワークショップ 感想文

先進理工学専攻3年 松木啓一郎

一貫制博士課程への入学からあつという間に2年が経過し、**Qualified examination**を無事修了した。プログラムの修了まで残り3年を切り、自身の今後のキャリアについても改めて考え、方針を立てなければいけないと感じていた所に、今回の交流会はとても有意義なものとなった。

リーディングプログラムでは大学ごとに特徴的な方針があり、異なるコンセプト・分野・目標をもつ学生同士でのワークショップは非常に興味深かった。特に、グループ毎に分かれて行った「充実した今後の博士(及び博士取得後)生活に必要なもの」の議論では、各々の研究背景を切り口に必要性の高いもの、今の自分たちに欠けているものの改善方法について熱く語り合った。専門力や問題発見解決能力、アウトリーチ能力の向上やモチベーションの維持、仕事環境の充実など、主張の中に共通点は非常に多いものの、研究背景やこれまでの経験から優先度に違いが生まれていた。時間制限がある中で、全員の意見や主張を尊重、妥協しながら1つにまとめる議論・発表準備はこれまでの研究活動にない新鮮さを感じ、良い刺激となった。加えて、このようなワークショップの中で大木先生や横野先生、吉田先生、朝日先生からも激励をいただき、今後のキャリア構築の指針をより明確にする機会を得られたように感じる。

今後は残された博士課程の時間を意識しながら、より高い専門性の確立を目指しつつ、未知の分野についても今まで以上に積極的に取り組みたいと思う。そして自身の専門分野とオーバーラップを持たせられるレベルまで理解を進めることで、最終的に私しか持ちえない知見を確立し、その内容を的確にアウトリーチ・意見交換をすることで理解をさらに先へと進め続けたい。今回の交流会では、今後の自分の在り方を見つめ直す良い機会となった。